

## 第二回 国際土木委員会 議事概要

1. 開催日時 : 平成 30 年 4 月 25 日 (水) 15:30~17:30
2. 場所 : TKP 赤坂駅カンファレンスセンター ホール 14B
3. 出席者 : 別紙参照
4. 議事概要
  - (1) 委員長挨拶  
第二回土木委員会の開催にあたり、矢吹委員長から挨拶があった。
  - (2) 国際土木委員会規約改定報告  
国際土木委員会の規約を 4 月 23 日付けで改定したことについて、尾澤事務局長から報告があった。
  - (3) 国際土木委員会実施計画  
2018 年度の実施計画として、本年 10 月と来年 3 月の国際会議への参加と、小委員会の設置について尾澤事務局長から提案があり了承された。
  - (4) 小委員会の設置について  
国際土木委員会規約第 8 条にもとづいて小委員会を設置することについて、尾澤事務局長から提案があった。設置の要点は以下のとおり。
    - ・参加の要否はそれぞれの分野の自主的な判断に委ねる。
    - ・委員、専門委員、オブザーバーを基本に、必要に応じて外部の専門家を参加させても良い。また、以下のとおり質疑応答があった。
    - ・小委員会の目標設定について質問があった。尾澤事務局長からは、先行している分野、特に bSJ と連携して情報を共有しながら各分野で目標を設定することについて提案があった。
    - ・東京開催に向けて小委員会で議論するイメージで良いか質問があった。尾澤事務局長からは、自国開催はハードルが低く、是非直接見てどのように参加したらよいか判断することについて要請があった。以上の審議を経て小委員会設置案が了承された。
  - (5) buildingSMARTInternational 国際会議参加報告  
パリで行われた国際会議の報告後、以下の質疑応答があった。
    - アセットマネジメント関係
      - ・アセットマネジメントについて議論がなかった点について質問があった。進捗に応じてのことで今回は議論がなかったことが回答された。
      - ・データの互換性に関する議論なのか質問があった。互換性は当然のこととして、インフラとしての構造物をどのように記述するか、という活動であると回

答された。

・アセットマネジメントについては、ISO16739での活動とは別のISO16950の活動との関係について質問があった。bSIとしてもISOとの関連の中で協調していくであろうと回答された。

●鉄道関係

・Alignmentの動きに対してIFC-Railの動きが連動しているのか質問があった。RoadやRailのプロジェクトはAlignmentの結果を以って進んでおり、またCommon Schemaのように、今後も課題に応じてInfraRoomと協調していくことが回答された。

・対象ドメインは、エネルギーと軌道、信号と通信、駅舎と発券機という3つと考えるよいか質問があった。別途説明することが回答された。

●ユースケースについて

・Requirement Analysisの対象ユースケースの選定の経緯や効果測定について質問があった。bSIの議論の場で各国参加者の意見等を元に12個を特定しその12個をベースに現在に至っていること、また現時点で効果測定のようなことはしていないことが回答された。

●Conceptual Modelについて

Conceptual Modelの考え方が日本の積算の単位などとの考え方や齟齬が出たりしないのか質問があった。お互いIFCを念頭において検討されていて逸脱していなければ、あまり違いはないと回答された。

(6) 東京開催について

開催日程と、開催場所について説明があった

2018年10月16日(火)～19日(金)

16・17・18日 お台場 : プラザ平成、科学未来館

19日 溜池 : 赤坂インターシティエア

東京開催に向けて、第三回土木委員会の開催を10月よりも前に実施することが提案され、矢吹委員長が承認した。

せっかくの機会なので、記者発表等の広報活動をする事について意見があり、尾澤事務局長からもbSJと連携をして活動していくことが表明された。

以上